

こもれび

地域に信頼され、親しまれる病院を目指して、みなさまと当院をつなぎ、森に差し込む“こもれび”のような、ひとすじの光をお届けしたいと思います。



手作り 雛人形
(林田フジ子さんの作品)

目次

P2 医療最新情報

「さらに高精度な放射線治療を目指して」

P3 トピックス

「大腿骨頸部骨折地域連携パスについて」

P4 連携医療機関紹介

~5 「医療法人 有心会 池田循環器科内科」

P6 看護部だより

「教育委員会の活動について」

P7 リハビリ科より

「呼吸器リハビリテーションとは？」

P8 検査科より

「最新鋭 超音波診断装置導入のお知らせ」

病院理念

患者さん本人の立場に立った医療

病院指針

1. 早期診断、早期治療、早期リハビリテーションを医療の基本指針とします。
2. 診療にあたっては、インフォームド・コンセントを基本にして、患者中心の医療を展開します。
3. 早期退院と医療の継続を目的に病診連携、保健、福祉の連携など、地域につながるチーム医療を展開します。
4. 地域医療を支援する施設として、常に医療水準の向上に努めます。
5. 経営基盤の確立に努め、協働、相互扶助、相互啓発を職場の規範として活力ある病院づくりを進めます。

さらに高精度な放射線治療を目指して

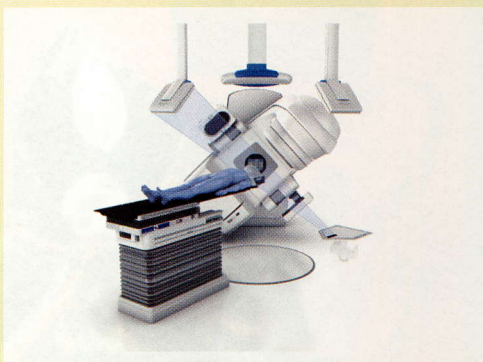


長崎県島原病院 放射線科 診療部長
長崎大学 医学部医学科 臨床教授

小幡 史郎

■ 常に最高水準の医療を提供するために

新病院が開設されて早10年を過ぎ、高精度放射線治療といわれる定位放射線治療（STI）や強度変調放射線治療（IMRT）を当院で受けられた患者数は1000例に達しました。半島外・県外の患者紹介や自己受診もみられ、これまでの『治療効果を上げ、有害事象を減らす』というQOLの高い治療を心がけてきたことの証なのかもしれません。治療チームとしてはこれに勝る喜びはありませんが、期待に応えることへの重圧により身が引き締まる思いでもあります。さらに高みを目指してより良いエッジの医療を提供するために、皆様のご協力を得て治療の新オプションを今回導入することができましたので、ご報告させていただきます。



■ 新システムで実現する「高精度」放射線治療

最新の放射線治療技術を臨床に活かすためには、その精度を常に高く保っておく必要があります。その治療精度の大きな柱として線量および位置における二つの精度があります。線量精度をさらに高めるためにこれまで使用してきた治療計画装置Pinnacle 3の最新版への更新、また位置精度をさらに高めるためにExacTracおよびRobotic couch、さらにそれらを応用したFrameless Radiosurgery Systemの導入を実現致しました。各々デバイスの概略を以下に説明致します。

- ① **Pinnacle 3**；治療の中心部である治療計画を立案する機器。±2%の線量精度を3次元的に具現化し不均一補正にも優れ、より複雑な治療計画にも高速で対応可能。
- ② **ExacTrac**；位置精度をサブミリ単位までマッチさせることを可能にしたX線および赤外線による画像誘導システム。
- ③ **Robotic couch**；直線的な3次元体的位補正に加え、3軸回転方向にも体位補正を可能にした6軸可動型の治療寝台。
- ④ **Frameless Radiosurgery**；定位脳放射線手術（ガンマナイフやラジオサージェリィと同義）をピン固定なしで施行可能なシステム。
- ⑤ **ARIA**；すべてのシステムをつなぐネットワーク、よりきめ細やかな情報連携が可能。



放射線科スタッフ

以上のシステム導入でさらにもうひと踏ん張り地域医療ニーズへの対応、患者への医療技術還元さらなる患者QOLの改善に大いに貢献していく所存であります。

今後ともどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

<お問い合わせ窓口>

当院での放射線治療をご希望の際は、地域医療連携室までお気軽にお問い合わせください。

電話 0957-63-1145（内線116）

大腿骨頸部骨折地域連携 クリティカルパスについて



整形外科 院長 白石 雅也

高齢者によく起きる骨折の代表である大腿骨近位部骨折は島原半島でも数多く起きています。当院では、年間約200名が治療受けており毎年増加傾向です。

もともと寝たきりや全身状態が悪く手術が困難なケースを除き、ほとんどが手術、それに続くリハビリの対象です。手術器具や理論の進歩により、歩行を含めたりハビリ開始までの期間は短くなってきており、手術後1週間以内で歩行を開始し、あとは本人の状態をみながらADL（日常生活動作）を拡大させています。

グループホームなどの施設から来た患者さんは、職員の介助でトイレ移動ができれば元の所に戻っていただく例が多いですが、最終的に自宅やケアハウスなどに帰る患者さんは、訓練・家の改造など元の住まいに戻るために、いろいろな問題を時間をかけてでもクリアしないといけません。

当院では、術後の患者さんを近隣の病院に紹介して訓練を継続していただく形を長年としています。骨折して入院～手術～リハビリ～元の住まいへの復帰を一連の流れとして、複数の病院で行っていくときに使用する診療計画表が『大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパス』です。

手術と術後の周術期（リハビリも開始しています）を急性期病院が担当、その後の復帰のための訓練や調整を次の病院にお任せします。当院は現在2つの医療機関と連携しています。

大腿骨近位部骨折の術後の成績はわりと安定していますが、それでも年間数例が再手術を余儀なくされています。原因は、感染のほか偽関節（骨接合した部位が癒合しなかった）、骨頭壊死（関節の丸い部分がつぶれてきた）など、いずれも術後時間が経過してから明らかになるもので、定期的にレントゲンをとりながら経過観察していないと見逃されます。再手術にはならないまでも、内固定の金属が骨折部の短縮にもなって皮膚のほうにでてきて痛みがでたり、人工骨頭が手術直後より沈みこむなど医師やPT(理学療法士)を悩ませる、いろいろな困ったことも生じています。

今のところ当院では前記のように是不会と予想される安定例を連携パスの対象としています。術後のフォローは極めて重要で、どういう骨折が術後気をつけないといけないか等を連携医療機関と共に検討しながら、パスの対象を増やしていく予定です。

[illegible][illegible]

連携医療機関のご紹介

医療法人 有心会

池田循環器科内科

新しいCTを導入し、冠動脈CTの検査もできるようになりました。

「どんな患者さんも、できるだけ最後まで診たい。そのためには、医療者どうしの連携が大切。」

熱く語る池田先生のことばに、地域の患者さんへの思いが伝わってきました。



本多 潤次 事務長

池田 重成 院長



【医療スタッフ】

看護師 13名
理学療法士 1名
臨床検査技師 1名

【所在地】

〒859-2202 南島原市有家町山川347-1

TEL 0957-82-0993

FAX 0957-82-0974

【関連施設】

- デイサービス
- 老人保健施設 ふれあい
- グループホーム 南風・茜雲
- ショートステイ・高齢者賃貸住宅
・介護型有料老人ホーム
いきいきハウス若竹

院長先生のご出身はどちらですか？

南島原市布津町です。

開業したときの経緯、思いなどをお聞かせいただけますか？

両親の「医者になってほしい」との希望もあり、医師の道を志しました。開業は平成3年1月10日です。当時、この付近に循環器の専門医療機関が少なく、患者さんは疎早や大村に送られていました。そんな患者さんをできるだけ地元で診られるようにと思い、開業しました。

どんな患者さんが多いですか？

心疾患や脳卒中の後遺症、生活習慣病など。開業当時は、今以上に急患が多かったです。最近は、高齢の方が増えてきています。病気を抱えていて、介護も必要という方です。

介護施設も、いろいろお持ちなんですね。

以前は、一般病床が11床、療養病床が8床ありましたが、国の方針もあり、今は一般病床2床、介護病床（老人保健施設）17床になっています。

介護施設は、医療が必要な患者さんも受入れ可能ですか？

ショートステイには看護師が4名いるので、経管栄養や喀痰吸引が必要な患者さんも受入れ可能です。この地域は高齢化が進み、認知症の方も多いため、グループホームもやっています。老人保健施設については、介護度の高い方が多く、ほとんど全介助です。

認知症の診断などもこちらでされるんですか？

厚生労働省の「認知症サポート医」の研修を受けているので、診断や処方も行います。こちらで判断が難しいときは、専門医の先生にご相談します。

老人保健施設・デイサービス施設は、診療所に併設されています。



往診はされますか？

しております。診療時間のなかでやっています。

「最期は自宅で」という方もいらっしゃると思いますが。

そういう方も、診ています。自宅でも、施設でも、最後まで看取ります。でも、最期を自宅で迎えられる方はなかなか少ないです。

新しく導入された
シーメンスのCT



新しいCTを導入されたそうですね。

昨年7月に、64列マルチスライスCTを導入しました。今まで心臓の冠動脈CTの検査などは、他の病院にお願いしていましたが、このCTの導入により、当院でもできるようになりました。

他にも検査機器など充実していますね。

血液検査なども、ほとんどが外注しないで、自院でやりますので、その日のうちに結果が出せます。急患や施設の救急にも対応できるようにと思い、整備しました。他にもトレッドミルとか。若い方の不整脈のときなど、検査で使います。いろんな患者さんに対応できるように、機械はいろいろ揃えております。

院長先生のモットーは？

自分が関わった患者さんは、できるだけ最後まで診たいと思っています。そのためにも、他の病院・施設等との連携が大切だと考えています。また、オールマイティーに、できるだけいろんな疾患を診ていきたいと思っています。

院長先生のご趣味は？

映画鑑賞と絵画収集です。月1～2回は長崎まで映画を観に行きます。アニメ・邦画・洋画など何でも観ます。仕事の事を忘れて、自分だけの時間が持てるのが良い。リフレッシュできます。それに昼寝も(笑)。絵は院内や、施設にも飾っています。

院長先生には、地域支援病院運営委員会や島原緩和ケア研究会の委員としてご協力いただいておりますが、他にも社会活動をされていますか？

介護保険認定審査会、福祉事務所の嘱託医、長崎県医師会の在宅医療検討委員会の委員などをやっています。お忙しいなか、いろいろな活動をされているんですね。

最後に、島原病院へのご意見等あれば。

これからの医療は連携が大切です。病床も少なくなり、在宅医療も推進されていますが、急変時の対応などを考えると、医療機関どうし、そして医療と介護との連携が欠かせません。そういった意味でも、地域医療支援病院として、連携(紹介・逆紹介)の推進をよろしくお願いします。



院内各所に展示された絵画



左から
臨床検査技師 和田さん
看護師 宇野さん
介護スタッフ 江越さん

新任紹介



外科 医長

眞田 雄市

(さなだ ゆういち)

H24年11月19日から
島原病院に参りました！

プロフィール

出身地

福岡県福岡市 広島大学卒

前任地

久留米市の病院です

趣味

ギター

学生時代は何部？

帰宅(バイトばかりしてました)

好きな食べ物

肉

健康のためにやっていること

ジョギング

島原の印象・好きな場所など

家からの眺めが良いです。

ごあいさつ

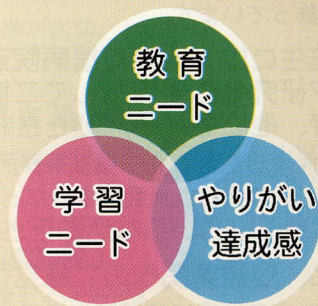
地域の皆様に少しでも貢献できるよう、励みます。手術、術後管理含め、バランスのとれた診療を目指しています。宜しくお願い致します。



看護部だより

「教育委員会」の活動について

当院の看護部教育委員会では、看護部教育理念に基づき、質の高い看護を追求し、個々の能力に応じた教育計画を立て、一人ひとりの成長を支援しています。そして、看護職員が積極的に参加したいと思える、内発的動機付けが出来るよう魅力ある院内教育を目指しています。教育ニードと学習ニードを充足した研修により、看護師のやりがいと達成感が得られると考えます。



看護実践能力・役割開発プログラム

キャリアを明確にし、役割機能の到達目標を明示した教育開発プログラムに沿って、研修会等を行っています。



レベルⅠは、「基本的看護技術」と共に「リスク」「接遇」「倫理」に関する内容等を取り入れ12月には看護観発表会を行っています。また、ケーススタディ研修、リーダーシップ研修により、看護実践を通して看護援助を振り返る機会としています。

レベルⅡでは、チームの課題を明確にし、3ヶ月の取り組みの成果を発表しています。

レベルⅢでは、中堅看護師としての役割理解とリーダーシップの発揮を目指した内容を企画・実践し、その成果を報告しています。

レベルⅣの主任以上については、管理Ⅰ・Ⅱ研修を取り入れて、組織の年間目標に沿った実践報告を行い、管理者としての育成の機会にしています。

また、院内外での研修会・学習会の参加を積極的に支援すると共に、その学びを発表する機会を設けています。その他、看護研究発表会・看護部全体研修等、様々な学習の場を設け、自身のスキルアップのみならず、より良い看護の展開に繋がるよう支援しています。



教育委員会メンバー

「私の看護観」発表会

平成24年12月4日に、今年の入職者や転任者を対象とした「私の看護観」と題した発表会を開催し、11名の看護師が発表をしました。

何を大切に看護してきたのか、今後はどう援助していきたいのか、などをこれまでの多くの患者さんとの出会いから振り返り、看護理論と照らし合わせながら発表してもらいました。自らの看護を深く考える機会となり、また、これまで教育や現場の指導者として関わってきたエルダーをはじめスタッフにとっては対象者の成長が見えるよい機会となりました。これからも看護の仕事をしていく上での道しるべとなる、感動する発表会になりました。

最後に、まだまだ発展段階にある看護部教育委員会ですが、今後も自律した看護師の育成をめざして、取り組んでいきたいと考えています。



発表会風景



「呼吸器リハビリテーション」とは？



理学療法士（呼吸療法認定士） 久米 由香

「呼吸リハビリテーション（以下、呼吸リハビリ）」という言葉を書いて、ピンとくる人は少ないと思います。実際、「リハビリならわかるけど・・・呼吸のリハビリって何をするの？」と患者さんからよく尋ねられます。簡単にいうと「息苦しさをやわらげるためのリハビリ」だと私は考えています。薬による治療に加えて、呼吸リハビリを行うことで日常生活が少しでも楽になるようになります。

今回は、島原病院の呼吸リハビリを紹介します。当院での呼吸リハビリは、主に呼吸療法認定士の資格を取得している理学療法士2名で担当しています。

どんな人が対象になるの？

肺炎やCOPD（慢性閉塞性呼吸器疾患：気道の閉塞により肺へ空気が流れにくくなる病気）肺がんなどの患者さんを対象に行います。自分で動ける方だけでなく、安静が必要な方、人工呼吸器などをつけた状態の方、様々な状態の患者さんがいらっしゃいます。

どんなことをするの？

リハビリといえば、筋力トレーニングや歩行練習などをイメージされると思います。もちろん呼吸リハビリでも、患者さんの状態に応じてそのような体力をつける練習を行います。加えて、呼吸練習・排痰練習など効率よく酸素を取り入れるための練習も行います。

呼吸リハビリでかせないのが、日常生活での呼吸法です。歩行や階段昇降時での息切れしにくい歩き方の指導を行います。また、入浴や歯磨き動作時こういった呼吸で動けば苦しくないか動き方の工夫も指導しています。

安静が必要な方には呼吸介助や体位排痰法（姿勢変換により排痰を行う）などを早期より実施しています。寝たきりの状態が続くと肺炎のリスクが増えるため、二次的な呼吸器疾患の予防をしないといけません。また、人工呼吸器の付いた患者さんには呼吸状態の改善を促し、人工呼吸器からの離脱をすすめていきます。

最後に

今年度より「呼吸リハビリテーションクリティカルパス」を導入しており、COPDの患者さんを対象とした2週間の教育入院を実施しています。上記のようなリハビリに加え、医師、看護師、栄養士や薬剤師など他職種とも協力しあいチーム一丸となって患者さんのサポートを行っています。



呼吸器内科回診の様子



呼吸練習

最新鋭 超音波診断装置 導入のお知らせ

臨床検査技師 大串 潤一郎



超音波検査（エコー検査）とは？

超音波とは、人の耳では聞き取れないほどの高い音のことです。この超音波を出す装置（プローブ）を体表部分にあてることにより、装置本体画面に体内臓器や血流などをリアルタイムで画像として抽出し、体内の病態を推測することができます。生理機能検査室では、主に心臓・頸動脈の超音波検査を実施しています。

超音波検査は、痛みがなく（非侵襲的）、被爆の心配もありませんので安心して検査を受けていただけます。

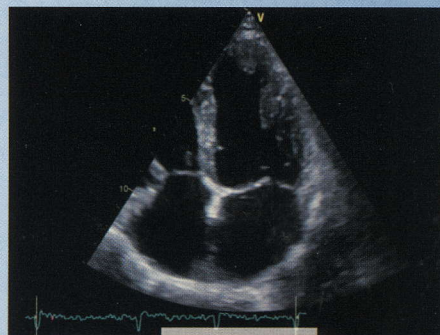
最新鋭機種「Vivid E9」の導入

当院の生理機能検査室では最新鋭の超音波診断装置GE社製「Vivid E9」を導入しております。「Vivid E9」は、GE社製超音波診断装置の最上位機種で、従来のものと比べて格段に高性能となっております。

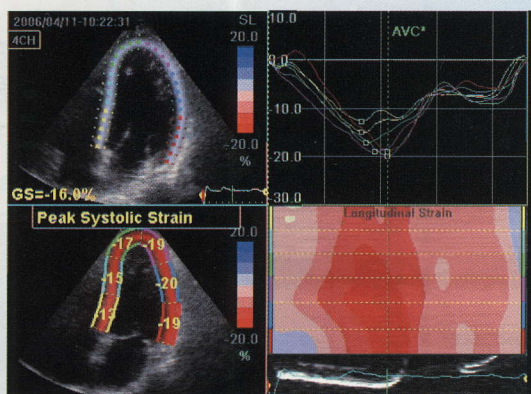
最新鋭の超音波装置の導入により、検査精度および検査効率が向上し、より一層の診療への貢献が期待できます。



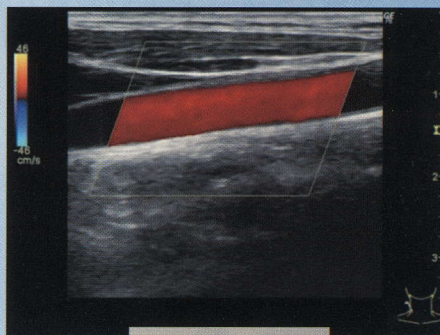
GE社製 超音波診断装置 Vivid E9



心臓画像



狭心症などによる心臓壁運動異常評価



頸動脈内血流

外来受付時間

午前 8 : 45 ~ 午前 11 : 00

休 診 日

土・日・祝日

年末年始（12月29日～1月3日）

発行／ 長崎県島原病院 広報委員会
（事務局：地域医療支援センター）

〒855-0861 長崎県島原市下川尻町 7895 番地
TEL **0957-63-1145** （代表）内線 116
FAX **0957-63-6544**
URL <http://www.shimabarabyoin.jp/>